

【出題意図と配点】

コミュニケーションを技として捉える筆者の考えを正確に理解しているか、そのうえで自分の経験を通して、解答者なりの筋立てた議論を展開しているかを問う。

問1 (配点 40点)

日本では伝統的に本題に入る前に挨拶が長々と行われてきた。しかし、外堀を埋めるようにして徐々に本丸に近づいていくようなやり方は、現代のコミュニケーションには合わない場合も多いと筆者は主張する。そうした筆者の主張の根拠を十分に理解できているかを問う。

問2 (配点 160点)

問1を踏まえた発展の問題である。コミュニケーションを技として捉え直す必要性を訴える筆者の主張は本文中に貫かれているので、それに気付いて、例を挙げながら自分の考えを論理的に述べることができればよい。なお、筆者の主張に対する賛否は問わない。

【採点基準】

大きくは、次の4点に留意する。

- ・理解力：問題文を適切に理解しているか。
- ・論理性：論理的に説明がなされ、結論が導かれているか。また独善的すぎず、柔軟性のある議論が展開できているか。
- ・思考力：自己の体験を盛り込むなど、主体的に取り組んでいるか。また独創的な側面を有しているか。
- ・文章表現力：文章にまとまりがあり、表現が適切でわかりやすいか。

問1

外堀を埋めるようにして徐々に本丸に近づいていくようなやり方は、現代のコミュニケーションには合わない場合も多いと作者は主張する。そうした作者の主張の根拠を十分に理解し、適切な文章でまとめられていればよい。

問2

コミュニケーションを技として捉え直す必要性を訴える作者の主張について、解答者なりの視点から分析し、論理的に説明できていればよい。なお、作者の主張に対する賛否は問わない。